

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 インターナショナル・コミュニティ・ネットワーク(ICN)

1 事業の趣旨・目的

市の支援体制の枠に入らない子どもたち、また、支援体制が十分でない教科学習のための日本語の学習支援を行う。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
2010年 6月18日 14:00～ 16:00	所沢市生涯 学習推進セン ター会議室	持丸 邦子 辻 恵子 小田 良子 鈴木 幸子 小川 珠子 池嶋恵理奈 オブザーバー: 富田 一成 (生涯学習推 進センター) 佐藤 尊之 (社会教育 課)	1. 子どものための日 本語教室 2. 学校派遣 3. 高校進学ガイダン ス 4. 指導者養成講座	・応募以降の経過報告 ・講座内容/募集について 説明 ・センターと講座実施に当っ ての詳細確認 ・意見交換
2010年 11月12日 14:00～ 16:30	所沢市役所 会議室	持丸 邦子 湯沢 智子 辻 恵子 唐寄 勝子 小田 良子 小川 珠子 池嶋恵理奈 (社会教育 課)	1. 養成講座経過報 告 2. 養成講座終了後 の活動について 3. 子どものための日 本語教室の現況 報告 4. 高校進学ガイダン ス報告	・実施概要報告 ・アンケート結果、スタッフ感想 等報告 ・実施内容について検 討、反省 ・受講者の今後の活動に ついて検討 ・来年度の養成講座開講 について意見交換

		オブザーバー： 講座受講者5 名	5. 来年度について	
3月23日	生涯学習推 進センター	池上摩希子 小田良子 唐寄勝子 持丸邦子 湯沢智子 横溝賀代子 池嶋恵理奈 佐藤尊之 (社会教育 課) オブザーバー： ICN メンバー 2 名・講座受講 者 2 名	1. 子どものための 日本語教室の現 況報告 2. 教育委員会の事 業 3. 来年度に向けて	・秋以降の転編入児童・ 生徒の日本語支援の 状況 ・教育委員会事業との連 携について ・日本語教室の周知方法 の転換(学校長だけで なく、PTA・教職員組 合を通じた周知) ・来年度の委託申請内容 報告

【写真】



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 子どものための日本語教室
- ② 開催場所 新所沢公民館などの市内公民館など公共施設
- ③ 学習目標 子どもたちが楽しく学校に通え、教科学習に取り組むための日本語学習を支援する。
- ④ 使用した教材・リソース 学校の教科書／ひらがな・カタカナ・漢字ドリル／『こどものほんご1・2』／『みんなの日本語』初級Ⅰ・Ⅱ 各国語版／映像教材／指差し会話帳(各国語)
- ⑤ 受講者の募集方法
募集チラシ(公民館・学校教育課・社会教育課・外国人登録窓口・高校進学ガイダンス・教会)／ロコミ

⑥ 受講者の総数 23 人(延べ人数ではなく, 受講した人数を記載すること。)

(出身・国籍別内訳 中国 5人, フィリピン 2人, 米国 4人, ブラジル 4人,
ペルー 3人, イラン 1人, ウルグアイ 1人, フランス 1人,
ニュージーランド 1人, 韓国 1人。

国名は、来日前に住んでいた国。この中には日本国籍の子どももいるが、正確なところは不明。)

開催時間数(回数) 262 時間 (全 140 回)

* 44回は大人と一緒に日本語ラウンジのため、謝金は発生していない。

⑦日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	4/5, 6 10:00~12:00	4	4人	日本・ペルシヤ語 フィリピン・英語 中国・中国語 日本・中国語	教授者3人	各自教科書
②	4/7 10:00~12:00	2	1人 2人	日本・ペルシヤ語 米国・英語	教授者4人	各自教科書
③	4/8, 14, 15, 21, 22, 4/28, 5/13, 19, 20, 5/26, 27, 6/2 15:00~17:00	24	1人	米国・英語	教授者1人	国語・数学
④	4/13, 14, 20, 21, 27 5/12, 19, 26, 6/2, 9, 6/16, 23, 30, 7/6, 7 9/1, 8, 15, 22, 11/4, 10, 17, 24 17:00~19:00	46	1人	日本・ペルシヤ語	教授者1人	各教科
⑤	5/12, 15, 18, 19, 26	10	1人	ウルグアイ・スペイン語	教授者1人	
⑥	7/6, 7	4	1人	ニュージーランド・英語	教授者1人	漢字
⑦	7/20, 21, 22, 23, 26, 27, 28, 29, 30	18	9人	日本・ペルシヤ語 フィリピン・英語 日本・中国語 2 中国・中国語 ブラジル・ポルトガル語 フランス・フランス語 米国・英語 2	教授者13人(交替で)	各教科
⑧	8/16, 17, 18, 19, 20, 8/24, 25, 26, 27	18	9人	日本・ペルシヤ語 フィリピン・英語 日本・中国語 2 中国・中国語 ブラジル・ポルトガル語 フランス・フランス語 米国・英語 2	教授者9人(交替で)	各教科
⑨	9/1, 8, 15, 22, 10/6,	16	1人	日本・ペルシヤ語	教授者2人	各教科

	13, 20, 29,					
⑩	9/15, 16, 22, 10/7	4	1人	日本・英語	教授者1人	各教科
⑪	9/29, 30, 10/6, 13, 10/19, 26, 2/2, 9, 16 2/23, 3/2, 9, 23, 30	14	2人	日本・英語	教授者2人 (1人の場合 もあり)	各教科
⑫	10/22, 29, 1/21, 24, 1/25, 2/4, 7, 10	16	1人	日本・スペイン語	教授者1人	高校受験
⑬	11/4, 10, 17, 24, 12/1, 8, 15, 22, 27, 12/28,	20	2人	日本・ペルシヤ語 日本・スペイン語	教授者3人	高校受験 各教科
⑭	1/4, 5, 6, 7	8	4人	日本・ペルシヤ語 日本・スペイン語2人 日本・中国	教授者4人	各教科 正月遊び なわとび
⑮	毎度曜日(8月・年 末・年始を除く)	88	16	中国 5人 フィリピン2人 ブラジル 4人 ペルー 3人 韓国 1人 ニュージーランド1人	教授者12 人	日本語ラウ ンジ(大人 と一緒にの教 室・支払対 象外)

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)

放課後の日本語教室では、条件の悪い中でも集中して勉強しています。中学生の放課後の時間は短いので、居住地区に近い公共施設を使っていますが、へやを予約できることはめったにできず、2階の狭いロビーに置かれたソファを机代わりに勉強しています。1回ごとに勉強の手ごたえを感じているようで、熱心に勉強しています。

長期休暇中の集中教室では、小学生と中学生が同時にいることが多くなります。小学校低学年の子どもは机に向かっているだけでは飽きて、遊び出します。中学生の勉強をじゃませずに、そんなときは、日本の子どもの遊びを覚えるチャンスです。また、へやの外で飛行機飛ばしをしたりして、遊びながら、新しい言葉を覚えます。なわとびなど、日本の子どもには必須のことも、日本語学習ではありませんが、やってみます。

大人と一緒に日本語ラウンジでは、日本の行事を体験してみたりします。今年はこちら、所沢市で郷土かるたができましたが、事前に、子どもの日本語教室でたくさん練習していたDちゃんは大人に混じっても負けません。いつもは、あきてしまうと折り紙をよくやっているのですが、学校の宿題をしたり、また、保護者の方も一緒に来られて、学校のことをいろいろと聞いて帰られます。



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
太田憲男	ポルトガル語(ブラジル) スペイン語も可	21年	3回・日本語ラウンジ	授業補助, 通訳
陳 健新	中国語(中国)	3年半	日本語ラウンジ	授業補助, 通訳

⑪ 支援者の名簿(⑩以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数*	当該教室での役割
持丸邦子	城西大学・NHK学園高等学校専攻科非常勤講師・ICN会長	国際人材育成(博士)・日本語ボランティア	15	コーディネータ・教授者
湯沢智子	ICN 副会長	日本心理学会認定心理士・メンタルケア協会認定スペシャリスト・埼玉県子育てアドバイザー・日本語ボランティア	59	コーディネータ・教授者
西連寺悦子	ICN	日本語指導ボランティア教員	52	教授者
栗原 淑子	ICN	日本語指導ボランティア 障がい児教育	30	教授者
大林 あや	ICN	日本語指導ボランティア	13	教授者

鈴木 雅明	ICN	日本語教育／数学・物理	8	教授者
飯泉 潤子	ICN 会計	日本語指導ボランティア	日本語ラウンジのみ	教授者
唐崎 勝子	ICN 会計	日本語指導ボランティア	8	会計・教授者
辻 恵子	ICN 副会長	日本語指導ボランティア・児童英語	2	教授者
横溝賀代子	ICN	日本語教師	1	教授者
柳 啓弥	ICN	日本語指導ボランティア	7	教授者
宇佐見照子	ICN	日本語教育・国文学	2	教授者
斉藤慶次郎	ICN	日本語指導ボランティア	日本語ラウンジのみ	教授者

* 日本語ラウンジは除く。

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

子どもたちの場合、目標は学校に楽しく通えることですが、子どもによって違います。

また、行きつ戻りつして、学校に通えるようになったり、ちょっとしたきっかけで通えなくなったりする子。一人一人の性格にもよるようですが、概して男の子の方が難しいようです。しかし、そうした子どもたちも、私たちの目から見ると成長しています。市内のまんが・イラストコンクールで入賞した子もいます。

② 学習者の習得状況

一人一人、学校の授業についていけるようになっている子。高校に合格した子、小学校時代の勉強の遅れを取り戻しつつある子(小学校時代の学校での支援が大幅に不足していました)など、さまざまです。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

日本語学習だけでなく、教室を家族関係・学校関係の不満のはけ口とできることで心の安定をもたらす効果がありました。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

一番、連携を密にしたい学校との連携が昨年度より難しいと感じました。学校での日本語支援の期間や質を高めてもらおうと、学校での教科学習支援制度を創設してもらいましたが、昨年秋以降、予想外に20名もの海外からの転編入の子どもたちが来たために、予算がなくなってしまったあと、教育センターが私たちの活用を思いついてくれなかったのが、残念です。

⑤ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

- a. 現状 支援が不十分な子どもがいる、という情報を依然、非公式の情報に頼らざるを得ない。
- b. 今後の課題 上記の状況を変えるのが課題です
- c. 今後の活動予定, 展望

PTAや教職員組合、民生・児童委員など、他の地域情報源に働きかけたい。
これまでも行ってきたが、教会への周知も行います。

- ③ その他参考資料 夏休み・冬休み・春休みの日本語教室案内チラシ
ICNマンスリー